玉川上水・野の花だより　No. 1

中央大学研究開発機構・機構教授　東京大学名誉教授

石川　幹子　　2026 年　4 月 18 日

玉川上水は、1653 年に多摩川の羽村取水堰から四谷大木戸まで開削され、飲料水、農業用水として人々の暮らしを支えてきました。渋谷区の玉川上水は、淀橋浄水場の廃止に伴い暗渠化され、緑道として地域の皆さまの憩いの場となっています。区内には 2 か所の開渠部が国指定史跡として保全されており、歴史的・文化的資産であると同時に、生物多様性の宝庫となっています。現在、行われている緑道の再整備にあたり、玉川上水に武蔵野の杜の生物多様性を再生していくことが大きな目標として掲げられました。

ささやかな一歩として、2026 年 4 月 3 日、大山緑道において、近隣保育園の子どもたち、地元の皆さま、渋谷区の協働により、野草の植え付けが行われました。厳しい都市環境のなかで、野草が生き生きと成長していくことを祈念し、「玉川上水・野の花　だより」を、お届けします。

「野の花」の植栽風景（2026 年 4 月 3 日）四條橋～五條橋

武蔵野の山野に四季折々に咲き、江戸時代から人々に愛されてきた「野の花」が植えられました。
ヤマブキソウ　アマドコロ、オダマキ、オドリコソウ、ツリガネニンジン、
アヤメ、オカトラノオ、ムクゲ、ヤブカンゾウ、フシグロセンノウ、トリアシショウマ、フジバカマ、オミナエシ、ノコンギク、
ホトトギス、ノアザミ、ヤマアジサイ等。

ヤマブキソウ　*Hylomecon japonica*
2026 年 4 月 7 日　撮影

渋谷区内には、開渠として 2 か所の玉川上水が残されており、国指定の史跡となっています。第三号橋から笹塚橋の間のサクラ、エゴノキの樹林の下にニリンソウが生育しています。中流域や吹上御苑にもみられ、渋谷区で自生していることは、「命の回廊」がつながっている証左です。

ニリンソウ　*Anemone flaccida*

キンポウゲ科イチリンソウ属の多年草で、林縁や水辺に咲く早春の花です。１本の茎から、２輪の花が咲くことから、二輪草といわれます。最初の花が咲いたあと、少し遅れて２番目の花が咲きます。やさしい姉妹のような春の訪れを告げる清楚な花です。東京区部では準絶滅危惧種に指定されています。

2026 年 4 月 7 日撮影

玉川上水下流域における国指定「史跡」

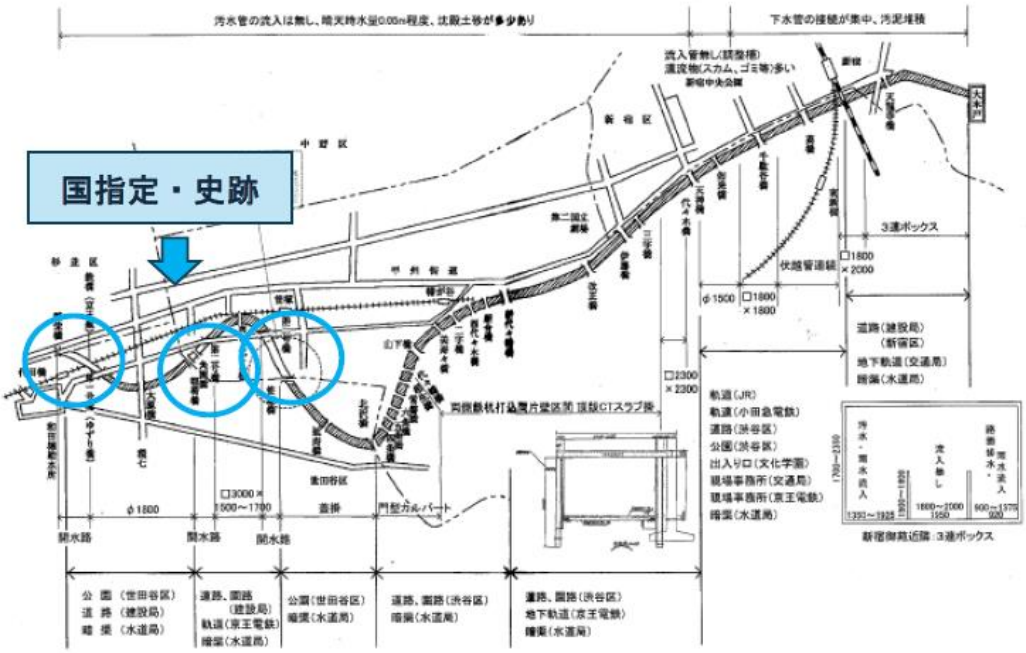
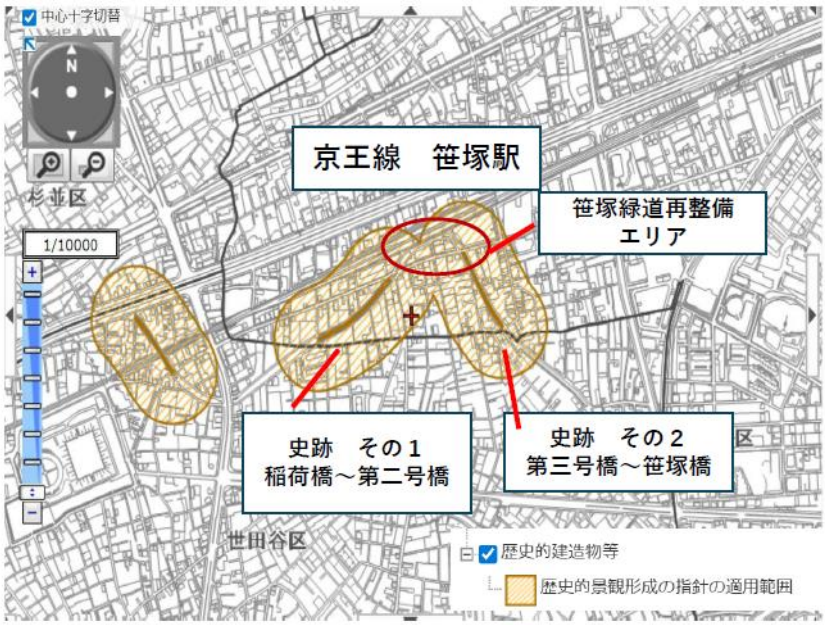


図 0-8 玉川上水の概況その5 (東京都教育委員会:玉川上水現況調査報告書「玉川上水概況編」, pp.5-13, 1995.、渡辺一二:図解武蔵野の水路, 2004、東京都下水道局資料,1996 より構成)

1

国指定：史跡エリア（平成15年8月27日）玉川上水開削350周年記念、開渠の部分が史跡となる。

東京都景観計画で、歴史的景観形成の指針の適用範囲に指定されている。